

HIS300GA

## 国際社会演習 - トランスナショナル・ヒストリー研究一

佐々木 一恵

配当年次/単位：3~4年 / 4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

過去とは、私たちにとは異なる文化の一つであり、また過去の出来事や事象を探究することは、現代と過去との間の関係性を相関的に捉えていくことでもあります。この演習では、国境を越える人・モノ・カネ・思想・文化の移動によって生じた現象及び問題を歴史的な視点から検討していきます。そこから、私たちに「当たり前」な事象や歴史認識を、批判的に捉えなおしていく力を養っていきます。また、ナショナルな境界を越える諸問題について、自分なりの研究テーマ（対象や地域は自由）を構想し、調査・分析し論文としてまとめていく方法・技術の修得を目指します。

## 【到達目標】

- ・文献を読み、内容を理解するだけでなく、自分なりの解釈や批判を含めたクリティカル・レビューや先行研究分析ができるようになる。
- ・一次史料（資料）に関して、それが書かれた政治的・経済的・社会的・文化的文脈の中で解釈できるようになる。
- ・自分が関心のある事象について、歴史的な視点から史料（資料）収集や現地調査を行い、研究論文（3年生のゼミ論は10,000字程度、4年生の卒論は20,000字程度）としてまとめていけるようになる。

## 【授業の進め方と方法】

- (1) 文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
- (2) 一次史料分析の発表を行う
- (3) 個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う）
- (5) 先行研究レビュー（自分のテーマに関する先行研究を整理しレポートにまとめ発表する）
- (6) その他（夏合宿、他大学との合同ゼミ、国際文化情報学会での発表、卒論合評会など）

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	演習概要の説明
第2回	アメリカ史からのアプローチ①	「黒人性」の問題から人種ステレオタイプを議論していく。
第3回	アメリカ史からのアプローチ②	いわゆる「移民の国」アメリカの矛盾を、先住民から問い直していく。
第4回	アメリカ史からのアプローチ③	LGBTQの権利運動史から、「多様性」の問題について議論する。
第5回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ①	ワインの流通の歴史からグローバルなモノと文化の動きを議論する。
第6回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ②	「アフリカプリント」から、布・衣・ファッションのグローバルな移動について議論する。
第7回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ③	ハワイ島のコナ・コーヒーと日系移民の結びつきから、グローバルな人とモノの移動について議論していく。
第8回	史料分析実習①	特定の事象・テーマに関するコンテキスト分析
第9回	史料分析実習②	特定の事象・テーマに関する史料収集
第10回	史料分析実習③	特定の事象・テーマに関する史料分析の発表

第11回	研究論文分析実習①	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第12回	研究論文分析実習②	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第13回	研究論文分析実習③	研究論文の構成・分析方法等について批評する。
第14回	論文作法	論文の書き方についてのワークショップ

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	今学期の計画と目標について
第2回	アメリカ史からのアプローチ④	人種隔離と男女平等憲法修正から差別・区別の問題について議論する。
第3回	アメリカ史からのアプローチ⑤	エスニック・コミュニティの議論から「多文化共生」の問題について検討する。
第4回	アメリカ史からのアプローチ⑥	シカゴの事例から都市ゲートの歴史と現在について議論する。
第5回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ④	スペイン史の事例から捉える国民国家の概念と実相について議論する。
第6回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ⑤	フランスの事例から国民国家の創造と境界について議論する。
第7回	グローバル・ヒストリーからのアプローチ⑥	女子教育のグローバル化から、近代国民国家とジェンダーの関係について議論する。
第8回	学会発表準備①	個人発表の予行演習
第9回	学会発表準備②	個人発表の予行演習
第10回	学会発表準備③	個人発表の予行演習
第11回	個人研究発表	3年生
第12回	個人研究発表	3年生
第13回	個人研究発表	3年生
第14回	まとめ	今年度、演習で学んだことについて振り返る。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 文献を読み、疑問点や質問、意見を準備してくる。
2. 発表にあたっては、事前に集まって発表のための準備を行う。
3. 個人研究の準備を進める（文献表の作成、先行文献の整理と批判、資料収集、調査、等）

## 【テキスト（教科書）】

兼子歩、貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史—人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017年）  
上智大学アメリカ・カナダ研究所、イベロアメリカ研究所、ヨーロッパ研究所編『グローバル・ヒストリー—「ナショナル」を越えて』（上智大学出版会、2018年）

## 【参考書】

歴史学研究会『史料から考える世界史20講』岩波書店、2014年。  
吉田ゆり子、八尾師誠、千葉敏之編『画像史料論—世界史の読み方』東京外国語大学出版会、2014年。  
歴史学研究会編『世界史史料』全10巻、岩波書店、2006~2013年。  
ヴァレリー・R・ヤウ『オーラルヒストリーの理論と実践：人文・社会科学を学ぶすべての人のために』インターブックス、2011年。  
横原茂編著『個人の語りからひらく歴史：ナラティブ/エゴ・ドキュメント/シテズンシップ』ミネルヴァ書房、2014年。

## 【成績評価の方法と基準】

発表・プレゼンテーション50%、提出課題50%

## 【学生の意見等からの気づき】

具体的な実習形式を入れてみることにした。

## 【学生が準備すべき機器他】

史料（資料）検索の実習等において、パソコンを使用することがある。

管理 ID：  
1805010  
授業コード：  
C1129